



# HAKUOH



VOL.

# 19

# NEWS

発行/白鷗大学 小山市大行寺1117 TEL: 0285-22-1111 http://hakuoh.jp

2面 国際交流、新任教員紹介 他

3面 平成24年度決算報告

4面 教員・公務員合格者数、就職実績、ハクオウスポーツ

3期6年にわたり第4代学長として学生の教育指導と本学発展に尽力した森山眞弓学長が2013年3月31日に退任し、第5代学長に元早稲田大学総長の奥島孝康(おくしま・たかやす)氏が4月1日付で就任した。

## 新学長からのメッセージ

本年度新たに白鷗生となった新入生、そして在校生の諸君。本学のモットーである「プルス・ウルトラ」(さらに向こうへ)は、これを定めた上岡一嘉初代学長の見識を示すだけにとどまらず、大学の志を示す実に素晴らしいモットーであります。

古人は、「苟(まこと)に日に新たに、日に新たに、また日に新たに」(大学)と言っておられます。「プルス・ウルトラ」とは、まさにこのことを意味します。プルス・ウルトラ、すなわち「さらに向こうへ」一歩踏み出すことを実践すれば、大学らしい大学が実現し、学生らしい学生が続々と生まれ、本学を「若き情熱の学府」へと変えることができるでしょう。

歌人として高名な会津八一も、若き学徒に対して、「日々新面目あるべし」と求めております。大切なことは、本学で4年間をどう生きるかということにあります。プルス・ウルトラは、諸君の大学での生き方を「かくあるべし」と求めております。

本学の所在する小山市は、恵まれた自然環境の中でじっくり腰を落ち着けて勉学に取り組む条件が



## 日々新面目あるべし 第5代学長 奥島孝康

整っているだけにとどまらず、世界遺産の日光や日本最古の学校として知られる足利学校なども近く、文化的環境に恵まれ、学生生活を心豊かに過ごす条件にも恵まれています。また、小山は関が原の天下分け目の勝敗を事実上決した「小山評定」が行われた地でもあります。学生の皆さんは、この地でじっくり学問に取り組み、社会で輝く存在となるための実力を養成しなくてはなりません。

これからの教育は、当然のことながら、国際通用力が必要です。本学はいくつもの海外の大学と交流協定を締結しています。それゆえ、諸君が世界へ飛躍する心があれば、その道は大きく開かれていくのです。

学生のみなさん、どうか未来を担う学生らしい高い使命感と情熱をもつよう努めることを忘れないうでください。校歌の一節にある「若き情熱の学府」をめざす全学のベクトルの方向が一致するとき、はじめて「黎明に道を開く」ことができるのです。そのために私も全力を尽くす決意です。

### 奥島学長経歴

1939年 愛媛県生まれ。

63年に早稲田大学第一法学部を卒業し、同大学大学院法学研究科修士課程・博士課程で商法学を専攻。76年に同大学院教授に就任し、76年から79年までパリ大学交換研究員として留学。教務部長、図書館長、法学部長を歴任し、94年から2期8年にわたり早稲田大学第14代総長を務めた。

学外では日本私立大学連盟会長や日本私立大学団体連合会会長、日本法科大学院協会会長等の要職を兼ね、現在も公益財団法人日本高等学校野球連盟会長や公益財団法人ボーイスカウト日本連盟理事長等を務める。

3月31日に勇退した第4代学長の森山眞弓氏は、3期6年にわたり学生の教育・指導に尽力。6年間で教員採用試験に246人、国家総合職を含む公務員試験には318人もの合格者を輩出したほか、司法試験においては法科大学院からは法科大学院から20人の合格者を数えた。また、国際交流も積極的に推進し、サンパウロ州立大学パウリスタ総合大学(ブラジル)や国立中国伝媒大学(中国)

### 3期6年にわたり 本学の発展に尽力 森山眞弓学長

として被災者への経済支援に取り組んだ。今回の退任は、私学を取り巻く環境が厳しくなる中で私学経営に長けた方に学長職を任せたいとする森山氏の意向を受け、理事会で承認された。森山氏は今後も学事顧問として、本学発展に向けた支援に取り組んでいく。



奥島学長は「諸君が前へさらに一歩踏み出す日々を本学で送ってくださるとき、本学は白きカモメと成る」と世界へ翔くことのできるよう」と新入生を激励した。

## 1241人の新入生迎え入学式

2013年度入学式が4月1日、第一体育館で行われ、会場に詰め掛けた保護者が見守る中、1241人が白鷗生として新たなスタートを切った。

2013年度入学式



学生リーダーによる校歌斉唱やハンドベル部の演奏など、在校生も新入生の門出を祝った。

## パリ大学東クレティユ校と協定締結

本学は5月、「パリ国立大学東クレティユ校」(フランス)と交流協定を締結した。これにより本学の海外交流協定校は、計8カ国14大学となった。

同大学のジーン・デイビッド・アベニエル学部長とドミニク・マイン教授が5月28日、本学を訪れ、奥島孝康学長をはじめ本学関係者と協定に関する打ち合わせを行った。

協定では、交換留学など学生の交流や、教職員間の交流、研究結果や学術資料などの情報交換、共同研究の推進を図るとした。

### 海外交流協定校 8カ国14大学に



- 国立ベルゲン大学 (ノルウェー)
- パリ国立大学東クレティユ校 (フランス)
- ワシントン州立ベルビューカレッジ (アメリカ合衆国)
- ワシントン州立コマユニティカレッジ (アメリカ合衆国)
- 国立中国伝媒大学 (中華人民共和国)
- 銘傳大学 (台湾・台北)
- 南台科技大学 (台湾・台南)
- クイーンズランド州立グリフィス大学 (オーストラリア)
- 州立ヴィクトリア大学 (カナダ)
- 州立インディアナ大学 (アメリカ合衆国)
- トライン大学 (アメリカ合衆国・インディアナ州)
- カリフォルニア州立大学サンバーナーディーノ校 (アメリカ合衆国)
- サンパウロ州立大学パウリスタ総合大学 (ブラジル)
- 州立ハワイ大学マノア校、コミュニティーカレッジ (アメリカ合衆国)

### 学位記・卒業証書 1152人に授与

2012年度学位記・卒業証書授与式が3月16日、第一体育館で行われ、1152人が社会へと新たな一歩を踏み出した。卒業したのは、学部生1139人と大学院修了者13人。保護者や来賓が見守る中、中国からの留学生で経営学部の符譯心(ふ・いしん)さんが、卒業生を代表してあいさつした。

退任前最後の卒業式に臨んだ森山眞弓学長は「私も卒業するような気分」と思いを語り、「生まれてきた時代を選ぶことはできなくても、変えることはできる。それが建学の精神『プルス・ウルトラ』の意味。さあ、これからみなさんの時代をつくっていきましょう」と卒業生を激励した。



2月にハワイの教会で行った親善公演

米国・ハワイ州で毎年、親善公演を続けている本学ハンドベル部に対し、今年2月、同州知事と Honolulu市長から感謝状が贈られた。ハンドベル部は発足以来、2年に一度開かれる世界大会に毎回出場しているほか、県内外で演奏活動を展開。1992年にハワイで公演し、好評を博したことから、以後20年以上にわたりハワイ大学や教会などで無料公演を続けてき

### 州知事、市長から感謝状

今年も2月に同地を訪れ、3日間4カ所ですべて5回の公演を実施。現地のテレビやラジオでも活動が紹介され、番組で生演奏を披露した。教育学部3年の牛久雅崇部長は「これまでのハワイでの活動が認められて凄く嬉しい。地道に練習を重ね、多くの人にハンドベルの素晴らしさを知ってもらえるようがんばりたい」と話している。

### ハンドベル部のハワイ公演

### ハワイ大教育学部と研究交流スタート

本学教育学部は、ハワイ大学教育学部との研究交流をスタートした。両大学の関係者が双方の大学を訪れ、教員研修やカリキュラム改訂の現

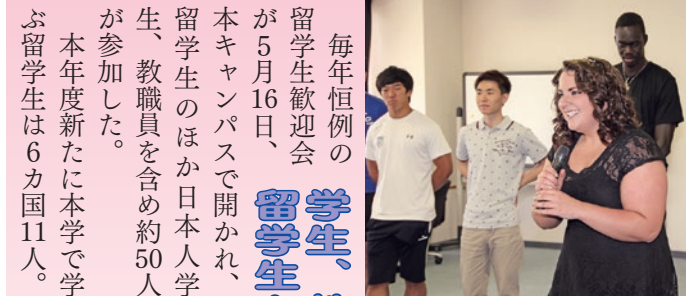


意見交換するヤング学部長(左)

状・取り組み等について意見交換を行った。

教育学部の赤堀侃司学部長と神戸文朗教授は今年2月、ハワイ大学教育学部と付属実験学校、コミュニティカレッジを

訪問した。5月にはハワイ大学教育学部のドナルド・ヤング学部長が本学を訪れ、本学教育学部教員との研究交流や意見交換を行ったほか、「ハワイにおける教育の現状」のテーマで講演を行った。赤堀学部長は「意見交換や研究交流において、当初の目的が十分達成できた」と成果を示し、「今後、ハワイ大学とは学生の研修交流だけでなく教員の研修も実施していきたい」と話している。



毎年恒例の留学生歓迎会が5月16日、本キャンパスで開かれ、留学生のほか日本人学生、教職員を含め約50人が参加した。本年度新たに本学で学ぶ留学生は6カ国11人。自己紹介する交換留学生のうち協定先の交換留学生は5人で、初めてブラジルのサンパウロ州立パウリスタ総合大学から交換留学生を迎えた。ブラジルからの交換留学生ミカミ・イヴイさんは「日本に来ることが夢だった。日本文化の勉強と演劇の研究をしたい」と語った。本学では現在、中国や韓国、アメリカ、リトアニアなどから計10カ国46人(大学院含む)が学んでいる。

ハワイ大学の学生6人が6月、日本研修のため本学を訪れた。今回の研修は11日間のプログラムで、白鷗生がホストファミリーとなり実施された。

ハワイ大生は、本学の英語の講義やダンスの授業に参加。また日本食とハ

### ハワイ大生が日本文化体験

ワイアンフードの手作り体験が催され、両大学の学生たちが相互の食文化に触れ合った。そのほか茶道体験や製菓工場見学、日光・足利見学などを行い、日本文化への理解を深めるとともに、本学学生との交流を図った。



飾り巻き寿司に挑戦するハワイ大生たち

### 小山城南高と高大連携

本学教育学部は本年度新たに、栃木県立小山城南高校と高大連携をスタートした。高大連携の協定締結は、県立小山城南高校に続き2校目となる。



小山城南高校は小山市内で唯一、総合学科を設置しており、その特徴を活かした活動も視野に連携を推進していく。協定内容は、①白鷗大生によるスクールサポーター②県立小山城南高校による白鷗大生の教育実習への協力③教員による研究交流及び連携④その他、双方が協議し同意した事項の4項目。調印式は3月15日、本学で行われ、小山城南高

### 教育学部

校の村山哲也校長と赤堀侃司教育学部長が協定書に署名した。

### 栃木県警から「少年警察」委嘱

本学は5月、栃木県警察本部から「少年警察大學生ボランティア団体」



を委嘱された。今後、本学ボランティア組織「未来創造ネットワーク白鷗」(未来ネット)を中心に、小山署や地元の小中学校等と連携して活動していく。同団体は、非行少年を生まない社会づくりの推進が狙い。少年と年齢の近い大學生をメンバーに、主に地域の防犯活動を展開する。今回の委嘱を受け未来ネットは新たに「防犯・安全部門」を設立。5月29日に本学で委嘱式が行われ、同部会長で法学部3年の近藤隆幸さんが、栃木県警本部の森敏雄少年課長から委嘱状と活動に使用するゼッケンを受け取った(写真)。

### 新任教員紹介

#### 河野 泰義

法科大学院教授  
実務家担当科目



法曹の仕事は大変ですが、やりがいのある楽しいものです。皆さんが、実務に役立つ法理論を身に付け、人の気持ちになって考え、社会に貢献する法律家になれるよう共に学び合しましょう。

#### 比護 正史

法科大学院教授  
実務基礎(民事系)科目



民事訴訟法等を担当しますが、法曹志望者が理論と実務のバランスのとれた分析・解決能力を養えるように教えたいと思います。社会や地域に貢献できる人材をめざしましょう。

#### 須藤 稔

教育学部特任教授  
教師論 教育基礎論



私は、今まで教育に携わってきたことを誇りに思っています。そして、1人でも多くの諸君が教職への希望を実現し、ともに誇りを共有できるようになることを願っています。

#### 高畑 昭男

経営学部教授  
国際関係論



私が大学で学んだ最大の成果は「今、自分が知るべきは何か」をいかに早く知るかでした。新聞記者40年の感想も同じ。今後は学生諸君にそのお手伝いをしたいと思います。

#### 范力

経営学部教授  
国際関係論



大学とは？学生同士や教員と触れ合う場であり、ディスカッションなどでもできる所である。本を読み、友達をつくり、思いやりの心を持ち、判断力を育み、居場所を見つけなさい。

#### 荒井 信成

教育学部講師  
保健科教育法



誰かがやらねばならぬ仕事がある。それは誰でもできる仕事である。しかし誰もが誰かがやってくれると思っている。これでは何も始まらない。皆でやろう、構内の美化活動を！

#### 平野 晋吾

教育学部講師  
障害児保育



大学は様々な価値観と出会う学びの場です。例えば障害のある子どもとの関わりの中にも、多様な「学び」が溢れています。未来の糧を得るための積極的な活動を期待します。

#### 山野井 貴浩

教育学部講師  
理科教育法



専門は理科教育(特に生物教育)です。皆さんと楽しみながら、楽しく分かりやすい授業の方法を考えていきたいと思っています。真面目でエネルギー溢れる学生を歓迎します。

#### 茂木 明奈

法学部助教  
民法 民事法概論



ひとつの現象にもさまざまな見方があります。盾にも矛にもなる学問を通じて、思考回路の数を増やし、見解を論じる力を培うお手伝いができればと思っています。

# 学校法人白鷗大学 平成24年度決算報告

## 【消費収支計算書】

消費収支計算書は、経営の状況について表したものであり、企業会計における「損益計算書」に近似したものです。平成24年度の消費収支差額は7億3,868万円の支出超過となりました。

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

収入の部 (単位:円)

科目	予算額	決算額	差異
学生生徒等納付金	5,852,249,400	5,828,327,320	23,922,080
手数料	159,010,000	163,589,760	△4,579,760
寄付金	28,300,000	40,582,201	△12,282,201
補助金	1,084,142,000	1,122,997,867	△38,855,867
国庫補助金	410,000,000	444,673,000	△34,673,000
地方公共団体補助金	674,142,000	678,324,867	△4,182,867
資産運用収入	282,405,000	305,507,643	△23,102,643
資産売却差額	2,102,000	3,026,632	△924,632
事業収入	28,810,000	26,037,941	2,772,059
雑収入	73,932,900	87,367,699	△13,434,799
帰属収入合計	7,510,951,300	7,577,437,063	△66,485,763
基本金組入額	△1,417,000,000	△1,347,699,783	△69,300,217
消費収入の部合計	6,093,951,300	6,229,737,280	△135,785,980

一般寄付金のほか現物寄付金を含むため、資金収支計算書と異なります。

大学は経常費一般補助金3億1,971万円、特別補助金1億2,437万円でした。

固定資産の取得による第1号基本金及び校舎改築に備えた第2号基本金への組入額です。

## 支出の部

科目	予算額	決算額	差異
人件費	3,646,331,549	3,594,753,386	51,578,163
教育研究経費	2,756,686,442	2,670,189,806	86,496,636
管理経費	724,428,323	675,897,155	48,531,168
借入金等利息	25,800,000	25,778,850	21,150
資産処分差額	726,513	726,513	0
徴収不能額	1,077,733	1,077,733	0
予備費	(52,151,560)	17,848,440	20,961,729
消費支出の部合計	7,172,899,000	6,968,423,443	204,475,557
当年度消費支出超過額	△1,078,947,700	△738,686,163	△340,261,537
前年度繰越消費支出超過額	△2,108,231,599	△2,108,231,599	
翌年度繰越消費支出超過額	△3,187,179,299	△2,846,917,762	

減価償却費を含んでいるため資金収支計算書と異なります。

基本金組入前においては、消費収入超過額が6億901万円となります。

## 【資金収支計算書】

資金収支計算書は、1年間の収入・支出ごとの資金の流れの総額を表したものであり、企業会計における「キャッシュ・フロー計算書」に近似したものです。資金収支の総額は125億4,759万円であり、平成25年度への繰越支払資金は35億8,590万円となっております。

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

収入の部 (単位:円)

科目	予算額	決算額	差異
学生生徒等納付金収入	5,852,249,400	5,828,327,320	23,922,080
手数料収入	159,010,000	163,589,760	△4,579,760
寄付金収入	26,700,000	38,611,016	△11,911,016
補助金収入	1,084,142,000	1,122,997,867	△38,855,867
国庫補助金収入	410,000,000	444,673,000	△34,673,000
地方公共団体補助金収入	674,142,000	678,324,867	△4,182,867
資産運用収入	280,005,000	303,089,473	△23,084,473
資産売却収入	389,200,000	427,534,420	△38,334,420
事業収入	28,810,000	25,889,798	2,920,202
雑収入	73,932,900	87,367,699	△13,434,799
前受金収入	1,177,920,000	1,183,808,980	△5,888,980
その他の収入	1,482,543,333	1,463,663,761	18,879,572
資金収入調整勘定(注)	△1,163,405,380	△1,197,741,570	34,336,190
前年度繰越支払資金	3,100,457,616	3,100,457,616	0
収入の部合計	12,491,564,869	12,547,596,140	△56,031,271

受取利息配当金と施設設備利用料による収入です。

有価証券の償還収入です。

特定資産の償還収入です。

## 支出の部

科目	予算額	決算額	差異
人件費支出	3,624,131,549	3,584,605,242	39,526,307
教育研究経費支出	2,066,686,442	1,981,203,824	85,482,618
管理経費支出	609,328,323	564,969,876	44,358,447
借入金等利息支出	25,800,000	25,778,850	21,150
借入金等返済支出	113,880,000	113,880,000	0
施設関係支出	226,215,000	176,841,974	49,373,026
設備関係支出	161,179,394	129,336,583	31,842,811
資産運用支出	2,220,200,000	2,220,051,068	148,932
その他の支出	419,698,453	394,117,354	25,581,099
予備費	(58,632,708)	11,367,292	11,367,292
資金支出調整勘定(注)	△225,415,602	△229,088,918	3,673,316
次年度繰越支払資金	3,238,494,018	3,585,900,287	△347,406,269
支出の部合計	12,491,564,869	12,547,596,140	△56,031,271

大学運動場購入、駐車場整備工事及び高校校舎設計料によるものです。

大学スポーツ器具、図書購入及び高校コンピュータ教室更新によるものです。

校舎改築特定資産及び有価証券の購入によるものです。

(注) 資金収入調整勘定及び資金支出調整勘定について

学校法人会計における資金収支計算の目的は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容当該会計年度における支払資金の収入及び支出とそてん末を明らかにすることとされています。そのため収入・支出ともに調整勘定が設けられています。なお、資金収入調整勘定には期末未収入金及び前期末前受金、資金支出調整勘定には期末未払金及び前期末前払金を計上しています。

平成24年度の決算についてご報告いたします。この決算書は法人全体のものです。

## 事業の概要について

東日本大震災の被災学生に対する修学支援のため、新入生及び在學生への学費減免を継続して行いました。教育活動においては、これまでビジネスコミュニケーション専攻生のみを対象としていた海外留学プログラム(SAP)を、経営学部全學生に対象者を広げ、また本学に納入された授業料を留学先授業料に充てることにより、経済的負担の軽減を図ることとしました。

教育学部においては、社会の要請に応えるべく児童教育専攻及びスポーツ健康専攻について入学定員を70名(収容定員は280名)増とし、教育学部全体の入学定員を430名としました。法学部においては、多様化する学

生のニーズに応え質の高い学生を養成するために、民法系のクラス数を増設し、少人数クラスによる授業を実現しました。また、各研究科においても、ニーズに添えるべくカリキュラム再編に向けた取り組みを行いました。

## 高等学校・中学校

高等学校においては、文部科学省主導の学校教育プロジェクトの一つであるスーパー・サイエンス・ハイスクール(SHS)に平成25年度より新規指定を受けました。施設設備面では、「白鷗大学足利高等学校将来構想」において建て替えの決定した既存建物の解体工事を行いました。

また、平成24年度卒業生の大学合格実績は、本校舎・富田校舎を合わせ、北海道大学等国立大学に62名合格、早稲田大学、慶應義塾大学等私立大学に590名合格という結果となりました。

## 決算の概要について(法人全体)

平成24年度における消費収支の概況は、収入面では学生生徒納付金(223百万円減)や寄附金(1百万円減)、補助金(18百万円減)等が前年度に比して減少しましたが、入学検定料等手数料収入(20百万円増)や有価証券及び引当資産等の運用による受け取り利息及び配当金等資産運用収入(53百万円増)の増加により、帰属収入全体としては前年比178百万円減となりました。

支出面では、教育研究経費において東日本大震災の影響を受けて東京電力が電気料を値上げしたことに伴い光熱水費(13百万円)が増加したほか、旅費交通費(20百万円増)及び学生生徒活動補助費(19百万円増)の支出が増加しました。しかし、奨学費(37百万円減)、修繕費(19百万円減)などの減少のほか、管理経費において広報費(16百万円減)など経費の削減に努めたことにより、消費支出全体としては前年比340百万円減となりました。

この結果、帰属収支差額は609百万円となり、前年比161百万円増加となりました。

貸借対照表の状況は、資産の部合計が35,170百万円となり、前年度比564百万円増となりました。主な内容は、その他の固定資産における校舎改築引当特定預金(将来の校舎改築等に備えるため、定期預金または債権で保有)の増加によるものです。

負債の部合計は3,171百万円であり、前年度比44百万円減少しました。主な内容は、長期借入金のうち平成25年度支払額を短期借入金に振り替えたものです。基本金の部合計は前年度末と比べて1,347百万円増加し、34,846百万円となりました。

## 【貸借対照表】

貸借対照表は、学校法人の期末における資産と負債・基本金・消費収支差額の状況を表示して、財政状態を表しています。資産総額から負債総額を差し引いた「正味財産」は前年度より6億901万円増加し、319億9,954万円となりました。

平成25年3月31日

科目	本年度末	前年度末	増減
<b>(単位:円)</b>			
<b>資産の部</b>			
固定資産	29,842,310,507	29,770,601,585	71,708,922
有形固定資産	19,854,065,910	20,349,201,802	△495,135,892
土地	5,346,085,538	5,273,781,488	72,304,050
建物	12,196,911,428	12,744,330,578	△547,419,150
構築物	264,369,935	279,053,965	△14,684,030
教育研究用機器備品	694,652,989	796,065,198	△101,412,209
その他の機器備品	106,164,066	121,280,114	△15,116,048
図書	1,121,865,636	1,081,024,214	40,841,422
車輦	59,701,318	53,666,245	6,035,073
建設仮勘定	64,315,000	0	64,315,000
その他の固定資産	9,988,244,597	9,421,399,783	566,844,814
借地権	291,394,657	291,394,657	0
退職給与引当特定資産	620,056,000	618,598,000	1,458,000
減価償却引当特定資産	1,811,382,677	2,210,996,677	△399,614,000
校舎改築引当特定預金	2,700,000,000	1,700,000,000	1,000,000,000
有価証券	4,341,012,500	4,378,257,700	△37,245,200
その他	224,398,763	222,152,749	2,246,014
流動資産	5,328,252,355	4,835,160,874	493,091,481
現金預金	3,585,900,287	3,100,457,616	485,442,671
有価証券	1,565,492,195	1,534,547,713	30,944,482
その他	176,859,873	200,155,545	△23,295,672
資産の部合計	35,170,562,862	34,605,762,459	564,800,403
<b>負債の部</b>			
固定負債	1,562,919,104	1,666,530,960	△103,611,856
長期借入金	927,760,000	1,041,640,000	△113,880,000
退職給与引当金	635,159,104	624,890,960	10,268,144
流動負債	1,608,097,572	1,548,698,933	59,398,639
短期借入金	113,880,000	113,880,000	0
前受金	1,183,808,980	1,104,020,480	79,788,500
その他	310,408,592	330,798,453	△20,389,861
負債の部合計	3,171,016,676	3,215,229,893	△44,213,217
<b>基本金の部</b>			
第1号基本金	31,656,463,948	31,308,764,165	347,699,783
第2号基本金	2,700,000,000	1,700,000,000	1,000,000,000
第4号基本金	490,000,000	490,000,000	0
基本金の部合計	34,846,463,948	33,498,764,165	1,347,699,783
<b>消費収支差額の部</b>			
翌年度繰越消費収入超過額	△2,846,917,762	△2,108,231,599	△738,686,163
消費収支差額の部合計	△2,846,917,762	△2,108,231,599	△738,686,163
負債の部 基本金の部及び消費収支差額の部合計	35,170,562,862	34,605,762,459	564,800,403

土地と図書以外の有形固定資産については、減価償却累計額を控除して表示しています。

減価償却による減少です。

高校の校舎新築工事の設計及び準備工事です。

将来の校舎改築等に備えるためのもので定期預金及び債券で保有しています。

平成25年度返済予定額を短期借入金へ振替えています。

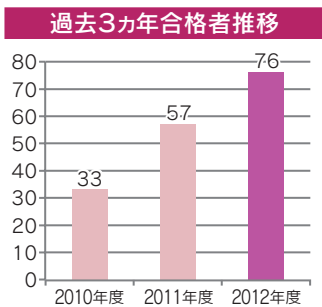
固定資産の維持取得に係る基本金(校地、校舎、機器備品、図書などのうち自己資金で取得した固定資産の価額)です。

将来取得する固定資産の取得に充てる金銭の額です。

必要な運転資金維持に係る基本金です。

2012年度教員採用試験合格者数(2013年6月末現在)

合格者数
76人(現役39人、既卒37人)
内訳
小学校…59人、中学校保健体育…7人、特別支援…3人、中学校英語…4人、高校保健体育…2人、中学校社会…1人
都府県別
栃木県…34人、埼玉県…12人、千葉県…5人、東京都…神奈川県…茨城県…福島県…宮城県…各4人、群馬県…2人、山形県…新潟県…横浜市…各1人



教員採用

過去最多76人が合格

※臨時的任用除く

公務員

国家総合職含む68人合格

民間企業

一部上場など内定率88.3%

昨年度の教員採用試験や公務員試験で本学学生の躍進が著しい。特に昨年度の教員採用試験合格者(臨採除く)は現役39人となり、前年度の31人から8人の増加となった。中でも栃木県での合格者が12人と過去最高の合格者であった。また、既卒者についても把握しているだけで37人の合格者を輩出し前年度の27人から大幅に増加した。県別では栃木県で22人の合格となり、現役合格者と合わせると34人の大量合格者を輩出した。

一方、公務員試験は合格者68人と過去最高には2人届かなかったが前年度比30人増と大躍進であった。国家公務員総合職合格者も出るなど大いに健闘した。また、栃木県

2012年度公務員試験合格者数(2013年6月末現在)

過去3カ年の合格者
2010年度: 70
2011年度: 36
2012年度: 68
国家公務員総合職(1人)
国税庁
県市町村職員(30人)
栃木県…4人(行政1人、警察行政2人、保育士1人)、小山市…3人、筑西市…2人、宇都宮市・結城市・古河市・南相馬市・那須町・那珂川町・茂木町・小野町・津別町・鏡石町・蓮田村・中島村…各1人、(以下、保育士)さくら市…3人、栃木市・那須烏山市・鹿沼市・桐生市・市貝町・杉戸町…各1人

警察(24人)
栃木県警…17人、警視庁・福島県警…各2人、茨城県警・青森県警・新潟県警…各1人
自衛官(4人)
栃木地区広域行政事務組合…3人、小山市・石橋地区消防組合…各2人、長岡市・佐野地区広域消防組合…各1人
消防(9人)
栃木地区広域行政事務組合…3人、小山市・石橋地区消防組合…各2人、長岡市・佐野地区広域消防組合…各1人

主な就職先(2012年度卒業生、公務員・教員は除く) ※順不同

経営学部
鹿島建設、本田技研工業、ANAエアポートサービス、セブンイレブン・ジャパン、NOK、澤藤電機、藤井産業、大塚商会、関東国分、渡辺パイプ、三井住友銀行、足利銀行、常陽銀行、大東銀行、栃木銀行、大和証券、エイチ・アイ・エス、栃木県中小企業団体中央会、岩谷産業、宇都宮記念病院など
法学部
北日本ガス、日本郵政、藤井産業、関東国分、渡辺パイプ、足利銀行、中国銀行、東京スター銀行、栃木銀行、中央労働金庫、水戸証券、宇都宮証券、近畿日本ツーリスト東北、宇都宮大学、栃木県国民健康保険団体連合会、栃木県商工会連合会、宇都宮商工会議所、県内外信用金庫など
教育学部
エパー航空、三井住友銀行、紀陽銀行、山形銀行、栃木銀行、大塚商会、ジーユー、山桜工業、佐川急便、東邦薬品など

「PLUS ULTRA教員の会」発足

現職の教員として活躍する卒業生たちを支援しようと、鷗友会は6月23日、教職卒業生組織「PLUS ULTRA教員の会」を発足した。

本学では開学以来、多くの教員を各地に輩出。「大学ランキング2014」(朝日新聞出版)で昨年度の小学校教員採用合格者数が全国32位、県内大学ではトップとなった。

発足会は東キャンパスで開催。教育学部の赤堀侃司学部長と奥澤信行教授のほか、新潟県や福島県、埼玉県など県内外の教職卒業生24人が出席し、会の名称や会則の決定、役員選出を行った。

教職卒業生の支援へ組織化

今回の組織化は、教職卒業生同士の連携を支援するほか、教職を志望する在学生との交流促進なども目的としている。

警察本部合格者17人、公立保育士合格者10人と過去最高の結果だった。一般企業の就職については雇用環境が改善されてきたものの依然として厳しい状況が続いている。このような環境の

中、内定状況はほぼ前年度並みを確保し、栃木県内外の金融機関や製造業、卸小売業、情報通信業等を中心に就職を果たしている。(勅使川原秀樹・進路指導部長)

関東大学選手権大会

関東大学1部リーグ

女子バスケ 悲願の初優勝!



接戦の末、勝利した早稲田大戦(昨秋のリーグ戦)

女子バスケットボール部は、昨秋の「第62回関東大学女子バスケットボール1部リーグ」と、今年4月から開催された「第47回関東大学女子バスケットボール選手権大会」で、いずれも1988年の創部以来初となる優勝を飾った。

過去のリーグ戦成績は98年の3位が最高順位。今回は、早稲田大と勝ち点で並んだものの、直接対決の成績で上回り、優勝をつかみ取った。また、最優秀選手に落合里

泉選手(教育学部4年)が、リバウンド王と優秀選手には馬伊娜選手(同部2年)が、それぞれ選ばれた。

選手権大会では、ブロック決勝で専修大学を87対67で破り決勝リーグに進出。早稲田大、拓殖大、松蔭大に勝利し、3勝0敗で見事に優勝を決めた。

これまで同大会では2回の準優勝を飾ったものの優勝は初の快挙。就任から18年目で悲願を達成した佐藤智信監督は、「歴史を変えたいという選手たちの思いが強かった。ハングリースpiritを持っていく」と選手たちの成長ぶりに感慨深げ。「選手たちは今年秋のリーグ戦、インカレの頂点を取り、3冠を目指している」と次の目標への意欲を語った。



主将を胸上げる選手たち

3年連続全国大会出場へ

軟式野球部

軟式野球部は、6月1日に行われた北関東大学軟式野球春季リーグ戦で優勝を飾り、3年連続で全国選手権大会の出場を果たした。

同日リーグ戦決勝は、序盤から両者が点を奪い合う打撃戦となり、中盤5回表までで5対5の同点。その後一転、投手戦となり9回で

は決着がつかず、延長戦へ。迎えた延長10回裏2死2塁で、宮田朋幸選手(教育2年)がセンター前に適時打を打ち、6対5のサヨナラで試合を決めた。

全国大会は8月に長野県で開催される。

男子バスケ 1部に昇格

男子バスケットボール部は、第88回関東大学バスケットボールリーグ戦2部で初優勝し、その後行われた1・2部間入れ替え戦で、日本大に2勝1敗で勝ち越し、1990年の創部以来初となる1部昇格を果たした。今年度は関東1部リーグでの優勝を目指す。